

9月号

第三回古典の日文化基金〔未来賞〕受賞

宮古市立津軽石中学校文化祭郷土芸能獅子舞グループ



流された獅子舞は私たちが引き継ぐ！！

2011年、宮古市津軽石法の脇地区を襲った東日本大震災。津波で壊滅的な打撃を受けた古里の獅子舞をいち早く復活させたのは地域の中学生だった。

〔受賞理由〕

津波は宮古市津軽石法の脇(のりのわき)地区の全てを押し流し、村に150年伝わった郷土芸能獅子舞の頭や衣装、太鼓などが失われた。そのうちの数点が津軽石川の川岸にひっかかっているのが発見保存された。そのわずかな手がかりから、獅子舞復活に立ち上がったのは津軽石中学校の生徒たちだった。

生徒たちは生活の復旧に追われる大人たちを励まし、震災翌年の2012年、避難生活を送る法の脇の人たちに教わった獅子舞を秋の文化祭で舞い踊った。津波で住めなくなった法の脇地区。生徒たちは「法の脇獅子舞保存会」の主要なメンバーとして、生まれ育った古里の獅子舞を残し、伝えていきたいと稽古に励んでいる。

伝統の中に新たな挑戦を！

みなさん、こんにちは、宮古市立津軽石中学校 法の脇獅子舞グループです。

私達は「古典の日文化基金賞未来賞」を受賞してから今まで様々な活動に取り組んできました。

今年度(令和7年度)の10月に行われた本校での文化祭や11月に開催された岩手県中学校総合文化祭では、練習の成果を発揮し躍動感のある獅子舞を披露することができました。

普段の練習では、「掛け声の大きさ」「踊りの大きさ」「隊形移動の素早さ」に重点を置き全員が意欲的に練習に参加しました。特に「隊形移動」は、今年から取り入れた新たな挑戦で、今まで円形だけで行っていたものを列にし、観客の皆様に向かって踊るというものです。そうすることでより踊りに迫力が出ると考えました。

ですが、そのような踊りを披露できるのは、東日本大震災の甚大な被害から立ち直った先人方のおかげでした。東日本大震災で法の脇獅子舞は、踊りで使用する「獅子頭」をほとんど流されてしまい、存続不可能な状況になってしまいました。当時の人達からは「もう諦めよう…」という声も上がり、地域は暗い空気に包まれていましたが、そんな中「諦めない！」と言って立ち上がったのが当時の中学生でした。「絶対に復活させる」という強い気持ちを持ち、失われた演技に使う道具を作り、練習して翌年の文化祭で復活の舞を披露しました。

それから14年後、先輩達から受け継いできた法の脇獅子舞を、私達は今年後輩に引き継ぎました。今まで進化してきた舞をより新たなものにするよう挑戦し続けていって欲しいです。

令和7年度3学年 田村 尤仁(たむら ゆうじん)





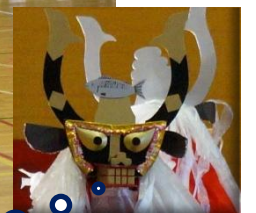
学校の文化祭で披露しました。
躍動感あふれる獅子舞を皆さんに観ていただきたいです！



よ〜く見てください。
立て物には雄鶏の紋が！
後ろの獅子の立て物は？



宮古市の魚
鮭が描かれています



魚の紋も！